

医師は語る



医療法人社団健翔会
堀口医院 理事長
堀口 裕

私のライフワーク〜自己防御力診断〜

1. 免疫防御システム

学生の頃、いつも講義室の真ん前に座り、先生方の講義を聴くことがとても楽しみでした。一つ一つのお話にロマンがあり、医学の輝かしい未来を予感していました。あるとき実験病理学の教授のお話を聴き、これからは「免疫防御システム」が病気を治す時代だと思いました。多分これが免疫というものに関心を持った最初です。今でもそうですが、30年前も癌に対する治療は難敵の一つでした。化学療法がとても重要であることは分かっていたのですが、身体に癌が発生すると直にリンパ球が攻撃することや、癌をコラーゲンという組織で包囲すること、癌を抑制できる話にとっても感動しました。今ではかなりしっかりと免疫療法が確立しておりますが、「免疫防御システム」に関心をもっておられる先生がとても多いということでしょう。実際の医療現場にでてみると、いろいろな病気に対して免疫防御の必要性はとても実感したのですが、日常の診療で免疫を評価できるものが無かったことに衝撃を受けました。その理由は、単に免疫といってもとても複雑で、リンパ球の種類だけでも沢山あり、個々の評価を簡単に行えないことでした。全部調べ

ようとすると時間も経費も莫大にかかってしまいます。そこで日常的に院内でできる簡単な免疫評価法を作成することになりました。これを免疫評価シートと呼んでいます。通常の血液検査でリンパ球と単球を調べ、そこから免疫機能バランスを簡単に評価します。今では癌だけでなくあらゆる病気で免疫の良し悪しをチェックすることができるよう、飛躍的に治療し易くなりました。

2. 炎症の抑制

しかし、いろいろな患者さんを診ているうちに、免疫防御システムはしっかり働いているはずなのに、病状が改善せずに悪化する人がいることに気がきました。あれほど免疫というものに感動していた気持ち、が、ちょっとだけ落胆しました。でも多くの人は、免疫防御システムが盤石になれば病気も回復するのですから、自分の基本的な考えに間違いはないと思っていました。それで免疫以外の検査項目をずっと注視していたところ、病気が悪化する人に共通の病態が見つかったのです。それはCRPが高いほど、病気が悪化しているという事実です。CRPはC反応性蛋白といって、炎症を評価する血液項目です。同じ部位の、同じ種類の、同じくらいの大さきの癌でも、その免疫評価が同じ程度であっても、炎症の大きさによって癌の進行度が全く異なるのです。炎症が大きいほど病状が悪化しやすく、ときに最悪の転帰をとるのです。一方、慢性関節リウマチのようにステロイド剤を投与して炎症を抑制すると、関節症状が悪化しないこともよく知られている事実です。そこで炎症をチェックすれば、病状の動向を予測できて治療も始めやすくなるのですが、CRPを使うことができません。

何故なら、CRPがゼロ(0 mg/dl)であっても病状が悪化している場合があるからです。このことはCRPよりもっと微少なレベルで炎症をチェックする必要があることを意味しています。すなわち、かなり小さな炎症で、病気が悪化しはじめるのです。最終的に臨床症状と突き合わせて検討した結果、「血液ラジカル生成能」を採用することになりました。これは東京(株)SRLという検査会社さんのみで行われています。もともとは人の体の酸化度を測定するものですが、実に病気の進行を予測するのに適しています。

3. 細胞の新陳代謝

臨床上、免疫防御システムを発揮させ、微小な段階の炎症を抑制することができれば、患者さんの病状はとて回復に向かいます。しかし、そもそも病気は何処からやって来るのでしょうか？免疫防御システムを高めたり、炎症を鎮静化することは、いわば病気への対症療法に過ぎません。病気の始まりは何処であるのか？それを解決しなければ永久に病気から逃れることはできません。病気が発生する場所は、ズバリ、細胞です。細胞しかありません。胃癌になる人は胃の細胞が癌化したのです。そして、肺癌になる人は肺の細胞が癌化したのです。人の体はどの部位も全て細胞でつくられています。外傷は別として、もし細胞が常に元気で働いているなら、私たちの体は病気になりません。最期、老衰のごとく逆くことでしょうか。ではどうして病気の細胞に変身するのでしょうか。細胞が病気に陥ってしまう理由は二つです。一つは細胞に老廃物が溜まるからです。そしてもう一つは、細胞に入力する血液循環が悪いことです。長年に亘る心身のストレスと過労に

より自律神経系の調子が悪くなり、細胞の新陳代謝が低下するのです。しかしこれまで日常的に細胞の新陳代謝を評価する方法が無く、独自に考案する必要がありました。これを「細胞内検査」と呼んでいます。これを実施するようになってから患者さんの病態を極めて早期に把握することができるようになり、適切な治療を直ぐに開始できるようになりました。

4. まとめ

現代の医療は、とても多くの人々の病気を改善する上で、誠に素晴らしい医療であります。しかし唯一残念なことは、目に見えないものを病気としています。例えば、カメラで大腸ポリプが見えた、超音波検査で胆石が見えた、脳MRIで梗塞巣が見えた、あるいは血糖値が正常値を超えているのを確認したなどです。しかしそれらの目に見える病気は、もともと見えなかったはずで、見えなくても、実際は見える病気へと発展していく根源があったはずで、私はそれを「病気の根」と呼んでいます。この病気の根は何故できたのでしょうか。それは本来持っていたはずの「自分で病気を防ぐ力」が弱くなっていたからです。このような力のことを自己防御力と呼び、これを調べる検査を「自己防御力診断」といいます。私たちが病気の縁を断ち切るためには、それぞれが必ず自己防御力を回復しておかなければなりません。私のライフワークの一つは、自己防御力診断を世界中に普及させることです。そして世界中の人に